

ジョンソン & ジョンソン(JNJ)

【セクター】 医薬品

【市場】 NYSE

【企業概要】

世界最大のヘルスケア企業です。売上の47%を占める医薬品部門は、免疫学、感染症、神経科学、腫瘍学、心臓血管と代謝疾患を含む5つの治療分野を中心にリウマチ治療薬の「レミケード」、乾癬治療薬「ステララ」、前立腺がん治療薬「ザイティガ」などを擁し、同35%を占める医療機器部門は、外科手術、整形外科、心臓血管、糖尿病ケア及び視力ケア分野に使用される製品を扱い、同18%の消費者部門は、ベビー・ケア、口腔ケア、スキンケア、市販薬、女性の健康と創傷ケアなどの分野の製品を扱います（17年12月期）。

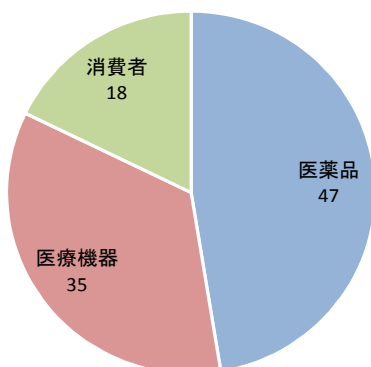
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
15年12月期	70,074	14,980	5.33	2.95	25.8	21.3	53.3
16年12月期	71,890	17,882	6.41	3.15	26.0	25.3	49.9
17年12月期	76,450	17,559	6.39	3.32	22.4	26.9	38.2

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【主要指標】

図表1 部門別売上構成比（17年12月期、%）



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 主力医薬品の19年12月期予想売上（予想はBloomberg）

薬名	用途	予想売上 (億ドル)
ステララ	乾癬治療薬	50
レミケード	関節リウマチ治療薬	45
ザレルト	経口抗凝固薬	30
インヴェガ・サステナ	精神病治療薬	29
インブルビカ	B細胞性腫瘍の治療薬	29
ダーザレックス	多発性骨髄腫治療薬	24
ザイティガ	前立腺がん治療薬	23

(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

同社の医薬品部門は年間売上10億ドルのポテンシャルがある新薬を19年までに10個申請する計画で、パイプラインが強く、中期的な成長を牽引していくことが期待されています。一方、同社製ベビーパウダーの訴訟がリスク要因として意識されています。同訴訟はベビーパウダーのタルク（滑石）にアスベストが含まれており、がんを引き起こしたとして訴えられています。7/12（木）に判決が出た直近のミズーリ巡回裁判所の裁判では、告訴した女性22人に対して41.4億ドルの懲罰的損害賠償、5.5億ドルの保障的損害賠償の支払いを命じられています。訴訟は8,500件に達していることから、賠償額は数千億ドルに上る可能性もあります。

【見通し・注目点】

4-6月期決算発表で公表された18年12月期のガイダンスは、売上がドル高を考慮して805～813億ドル（前年比5.3～6.3%増）へ下方修正されましたが、基調売上の伸び率は前年比4.5～5.0%増で維持されました。EPSは8.07～8.17ドルへ引き上げられています。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 18/8/28)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。